

防衛大学校本科第15期学生及び理工学研究科第6期学生 入校式における学校長式辞（昭和42年4月6日）

本日、三輪事務次官^{注(1)}、天野統幕議長^{注(2)}をはじめ、多数の来賓各位並びに全国からはるばるご来校くださいました父兄の皆様方をお迎えして、ここに本科第15期学生及び研究科第6期学生の入校式をとり行ない得ますことは、われわれ学校関係者一同の衷心から欣快に存ずるところであります。

私は、先ず新しく入校せられる諸君に対し、栄えある入校をお慶びを申し上げますと共に、前途有為なる若人をかくも多数本校に迎えたことに限りない喜びを感じております。

本科の諸君は、本年は特に多数の志願者の中から激しい試験競争に打ち勝って、入校の栄冠をかち得られました。また研究科の諸君は、部隊・機関等の業務を離れ、再び研究に専念し得る機会に恵まれたのであります。いずれの諸君も入校の喜びと感激とを胸に秘め、この風光明媚な小原台上において今後の数年間を勉学に、はたまた研究に努力しようという堅い決意を抱いておられることと思います。

研究科の諸君、諸君が2年間にわたり研究に従事し得る陰には、各自衛隊等における幾多同僚が諸君に代って、旧に倍する努力をしている事実のあることを忘れてはなりません。諸君は、特に選ばれてそれぞれの専門分野において高度の科学技術の研究に従事せられる幸福を思い、自重自愛、研鑽に励み、立派に修学の目的を達せられるよう切望いたします。

本科第15期生の諸君、なつかしいわが家を離れ、自から選んだ防衛大学校の校門をくぐって、本日の式典に臨んでおられる感想はいかがですか。新しい環境と生活の不慣れから生ずるいくばくかの不安もありましょう。反面、大学教育を受ける喜びと身心をたくましく鍛えようという意欲もあるでしょう。それらの気持ちが互いに相交錯しているのではないかと想像いたします。諸君は、次第に学生舎における生活にも慣れ、勉学にも励み、訓練や校友会活動にも興味を覚えるようになるでしょう。やがて絶好の環境



第2代学校長 大森 寛

注(1) 三輪良雄

注(2) 天野良英陸将

と明朗闊達なる校風に共感をもたれると思います。

しかし諸君の選ばれた途は、必ずしも容易なものではありません。時には前途に疑問を生じ、あるいは生活に不満をもつことがあるかもしれません。先ずそれに耐えることが必要です。いかなる困難があろうとも、それを克服して前進するところに、若人の誇りと生甲斐があるのではないのでしょうか。またかかる体験を積み重ねることによって、初めてより高い人生の目標に進みうるのであります。したがって諸君は、中途において志を曲げるようなことがあってはなりません。本校に学ばんとする諸君は、入校の当初において、「男子志を立てて郷関を出づ 学若し成らずんば死すとも帰らず」という古語に示す気迫と不撓の信念をもつことが肝要であります。

諸君は、明日から早速入校訓練を体験し、その後、規律ある団体生活の下に、勉学やげしい訓練に多忙な毎日を送られることとなります。日増しに学力が進み、体力・気力の充実を感じるようになると思います。私は、諸君の選ばれたこの小原台上における生活はきわめて意義深いものであり、必ずや諸君の期待に沿うものであると確信いたします。諸君は、本校4年間の学業を終えたのち、幹部候補生学校に進み、将来、陸・海・空自衛隊の幹部としてわが国防の重責を担われることになるのです。諸君が進まれる自衛隊について、最近、新聞紙等をにぎわす事件もありましたので、その任務・性格等について一言申し述べたいと思います。

自衛隊は、わが国の平和と独立を守り、安全を確保することを任務とする国家の組織であることは諸君も承知のとおりです。自衛隊は、国家に固有の自衛権能に源を発し、自衛隊法等に具体的に規定せられている権限と責務を有するものです。独立の国家が自衛力を保有するということは当然のことでありまして、この事実は、世界の130に及ぶ独立国の状況をみれば、なんらの疑問の余地のないところであります。外国からの不法な侵略に対し、自からを守るという理念において、昔は「百年兵を養うは一日の為なり」といわれておりました。すなわち国防力は国家非常の際のための備えであって、平時においては非生産的なものであるとの観念がありました。現在においても、国を守るという基本的性格にももちろん変化はありませんが、高度な科学技術の発達に従って、国防力のもつ意義について次の諸点に留意することが必要であります。

第1に、国防の目的は戦争をすることではなく、戦争を阻止、抑制して平和を確保することです。したがって諸君は、いかに戦うかという技術を修得する前に、いかにして平和の理想の達成に貢献するかということについて、高い識見を養う心構えが必要であります。

第2に、最近における戦争様相の変化に伴って、非常時と平和とを区別することは、きわめて困難になりました。われわれは百年に一度の非常時に備えればよいのではなく、いついかなることが発生するかもしれない事態に備えねばなりません。これは朝鮮戦争勃発当時の状況やベトナムの実情を見れば明瞭であります。また単に武力戦に対処すれ

ばよいのでなく、政治・経済・外交等広範な知識が不可欠になってまいりました。

第3に、自衛隊は数多くの災害派遣や土木事業等の実施などを通じて、国土の保全や社会の福祉の増進に積極的な役割を果たしております。このような業務は、自衛隊の付随的な機能と考えるべきではなく、国家・国民を守るという本来の任務の一部であります。この意味において、自衛隊は武力戦のみを任務とする非生産的な組織ではありません。社会の開発や国民生活の向上にきわめて密接な関係をもっています。私は、ここに自衛隊の平時における重要な任務があるものと考えており、将来諸君の活躍する広い職域が存在しております。

自衛隊は以上のようなきわめて重要、かつ広範な任務をもっております。諸君は、将来その中核的役割を果たす立場につかれるのです。わが国の発展と国民の繁栄は、諸君の双肩にかかっているといたっても過言ではないと思います。諸君は、これらの要請にこたえうる能力と資質とを養うことが肝要であります。

本校における教育は、かかる観点から立派な幹部自衛官に必要な社会人としての教養と識見を養うと共に、武人としての堅確なる使命観と基本的識能の錬成とを重視しております。ただこれらの問題は、いずれも多岐、広範にわたり、到底4年の期間内においてはその全^{まっ}うを期し難いものであります。そこで一般・専門教育の内容、程度と防衛専門分野との比率をどうするかが問題となってまいります。

本校の教育方針としては、

- 1 大学設置基準に準拠し、一般教育及び理工学の専門教育を中心としております。
- 2 防衛学・訓練等により防衛専門教育を合せ行なっております。すなわち、専門的な職種教育に偏することなく、幅広い教育を施すことによって良識ある人間形成を図り、将来における伸展性のある資質を養うことを主眼にしております。
- 3 また学生隊生活・校友会活動等を通じ品性の陶冶を図り、体力・気力の錬磨に資することを期待いたします。
- 4 さらに本校の特色としてあげられることは、陸・海・空の要員を統合的に教育、訓練しているということであり、これは陸・海・空の各部隊は、同じわが国防目的に奉仕するという立場から、相互の理解協力が緊要であるということのほか、陸・海・空部隊の統合運用の趨勢に即応せんとするものであります。

本校の教育方針についての理解を深からしめるため、諸外国の軍学校における教育の特色について簡単に紹介いたします。欧米諸国における教育方針をみると、いずれも立派な軍人の養成を根本目的とすることは同一であります。大きく二つに大別することができます。一つは、卒業後比較的早く役に立つことを期待して職能的専門教育を行ない、軍事技術の修得、訓練等に重点をおくものであります。他の一つは、軍人として

の長い経歴を通ずる要請を考えて、一般的・基礎的教養に重点をおくものです。この場合においては、その程度も一般大学レベルであります。

ヨーロッパの各国は概して前者に属し、教育年限も2ないし3年であるのに対し、アメリカの士官学校はいずれも後者の範疇に属し、教育年限は4年であります。いずれの学校においても教育の内容は理工学が中心であります。アメリカにおいては、近時、人文・社会学等一般教育の比重が増加しております。初級軍人の教育について、いかなる方針をとるかは、その国の歴史・伝統・軍隊の性格・任務及びその国の果す国際的役割等によって決定せられるわけであり、それぞれ特色があるように思います。

わが防衛大学校の方針は、以上の説明によっておわかりのように、驚異的發展を遂げる科学技術に支えられた将来の国防の任務に適應しうることを目標に、豊かな人間性、広い視野、高い科学的思考力を涵養し、かつ自衛官としての使命觀に徹した人物の養成を方針としているものであります。

若き諸君の理解と今後における諸君の奮起を願って私の式辞といたします。